

准教授 西村 和泉

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例 フランス語 I	(前・後期)	フランス語を初めて学ぶ学生に向けて、プリントを作成し、適宜パソコンとOHPで視覚的に理解できるよう工夫した。
フランス語 II	(前・後期)	Iを履修した学生に向けて、日常表現の発音練習を行うと友に文法の解説を行なった。小テストでフレーズの暗唱を課して発音チェックを行うことで、仏検5級レベルの語学力を養った。
フランス語 III	(後期)	I, IIを履修した学生に向けて、流暢なフランス語を聞き取り、書いて話せるように、教科書のみならずプリントや視聴覚教材をとおして、正確な発音と綴りを習得した。仏検4級レベルの幅広い知識を学び、学生がペアワークを積極的に行うことで、将来にわたって使えるフランス語力を身につけた。

異文化入門 文芸実技 デザイン基礎演習E	(前・後期)	毎回異なるテーマで、自作のプリントを用いて授業を行なった。  ヨーロッパの作品を自作のプリントと視聴覚資料を使って解説をし、実際に複数の作品（絵本・短編・シナリオ）を創作した。  絵本の創作技法について授業をし、実際に絵本を創作した。また、短編や児童文学、シナリオについても作り方を学び、実際に創作し、一人一人にコメントすることでデザインの基礎を習得した。
◎作成した教科書・教材		すべての授業で自作のプリントを適宜配布した。 文芸実技、デザイン基礎演習では、絵本作成用の教材（カラー画用紙、台紙等）を配布した。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価		毎年、学生に独自に授業の感想を書いてもらっている。フランス語については、「初めて習う言語だが、とても分かりやすく、課題も取り組みやすい」、異文化入門については「まったく知らない文化を身近に感じた。日本との違いが興味深かった」、デザイン基礎演習で絵本を創作した学生からは、「絵本を初めて作ったがとても貴重な経験だった。これからも作り続けたい」との意見が書かれていた。
◎その他		・デザイン基礎演習の授業で、学生が互いの作品を鑑賞し、どの点が優れているか、どこを直すともっと良いかについてコメントをする時間を設けた。また、卒業して社会で活躍する先輩から話を聞く機会も設けた。 ・フランス語の授業では、授業時間のみならず自宅でもコンスタントに勉強を進めており、自宅で問題集を解いた学生には授業時間の前後を使って教室で添削を行なった。卒業までに仏検3級を取得し、現在フランスに留学をしている学生もいるので、今後もこの試みは続けてゆきたい。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎著書 『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』井上善幸・近藤耕人編	共著	2016年11月	未知谷	本書は、国内外のベケット研究者による最新の論文集である。第一章「人間の終焉」、第二章「不条理な探求」、第三章「イマージュ批判論」、第四章「エディプス批判」、第五章「テキストよ、語れ」、第六章「亡霊とテクノロジー」の内、筆者は第五章を担当した。拙論「ベケットの初期作品におけるカオスの変容—レオバルディからポアンカレへ」においては、ベケット作品に通底するカオスとコスモスの関係を分析した。草稿研究をベースに、初期作品におけるジャコモ・レオバルディからの影響と、後期作品におけるポアンカレとの共通点を浮き彫りにした。